民主主義が息をした日

花木則彰議員への懲罰について

懲罰動議をめぐり、共産党市議団の控室には、多くの市民が激励に駆けつけた。

質問妨害の事実はない

「大声でヤジを飛ばし、議員の発言を妨害した」など、事実でない理由をこじつけ、日本共産党議員に罰を科し、議場で謝罪させる――。仙台市議会で前代未聞の出来事が起こりました。自民党、公明党などは、日本共産党の花木則彰幹事長に対する懲罰動議を提出し、数の力で採択。花木議員は、議会が作成した陳謝文を読み上げさせられました。まさに、ファッショ的行為です。日本共産党、社民党、アメニティ仙台は、断固として抗議しました。

発端は、突然の共産党攻撃

ことの発端は、2月27日の仙台市議会予算審査特別委員会。新年度予算を審議する同委員会で、質問に立った自民党・わたなべ拓議員（太白区）は突然「日本共産党は、自由と民主主義の政体を暴力革命により転覆するような考え方」など、共産党攻撃を開始し、何度も繰り返しました。これに対し、日本共産党は、事実無根の誹謗中傷だと抗議。発言の一部を議事録から削除するよう求めました。これまでの市議会でも、事実に基づかない発言や他の議員、党を侮辱する発言は、議事録からの削除や訂正がなされてきました。ところが予算委員長は、受け入れません。やむをえず日本共産党は、懲罰を求めることで、議会の民主的運営を守ろうと、わたなべ拓議員への懲罰動議を社民党と共同で提出しました。

すると自民党、公明党などは、逆に花木議員に対する懲罰動議を出してきました。大声でヤジを飛ばし、わたなべ拓議員の発言を妨害したなどという理由づけです。この真偽について、議会（懲罰委員会）でビデオとICレコーダーによる検証が行われました。花木議員が質問を妨害したという事実は、まったく確認されず、わたなべ拓議員は、発言を妨害されたどころか「暴力革命」など共産党攻撃を揚々（ようよう）と続けた様子が再現されました。花木議員への懲罰動議は、こじつけによる、単なる“仕返し”というほかありません。

（※わたなべ拓議員への懲罰動議は、自民、公明などが否決）

議会の民主的運営に決意

市議会の場で、他議員や他党に対するデマ攻撃がまかり通り、それに抗議したり是正を求めたりすると罰を科せられる――これでは、もの言えぬ議会になってしまいます。こんな市議会を市民がのぞんでいるでしょうか。

日本共産党は、花木議員への懲罰動議が可決された直後、記者会見を行い、議会の民主的運営に全力をあげていくことを表明しました。民主的な運営は、市民の要望を反映させ実現させていく上で不可欠です。

懲罰動議が採決される日、事の経過に理不尽を感じた多くの市民が議会に駆け付け、傍聴席はあふれました。民主主義の窒息感が漂った議場。しかし、それを見つめる傍聴席からは、民主主義の力強い息づかいが聞こえていました。

花木議員への懲罰動議に対し、3会派の議員が反対討論に立った。
（6月13日　市議会）

□**ふるくぼ和子議員（日本共産党）**…「可決することは、議会の民主主義破壊であり、歴史に大きな禍根を残す」

□**相沢和紀議員（社民党）**…「懲罰委員会で、花木議員に問題がないことが明らかになったのに、数の力で白を黒とすることは断じて許されない」

□**村上かずひこ議員（アメニティ仙台）**…「気に入らなければ懲罰。とても民主的国家で起きていることとは思えない」

日本共産党は、議会の透明化を進めてきた。いち早く、政務活動費の使途（領収書）を公開。インターネットでも公開した。いまそれが議会のルールとなっている。

暮らしの現場に足を運び、要望を聞き、それを議会で取り上げる。日本共産党の日常活動だ。

地域の人たちに、市議会の報告。市政への意見も聞く。双方向の活動が市政に血を通わせている。

現場で起きていること、市民の生の声を偽りなく議会であきらかにする。そうして市政を動かしている。

政治を一歩でもよくするため、党派を超えて共同を進めている。相手に敬意を払いながら、粘り強く対話し、共同を広げる。郡市政と市民の強力なパイプ役を果たす。

公約は、重いもの。

市長公約の実現を求めました。

給付型奨学金をつくる

返す必要のない給付型奨学金制度は、郡市長が掲げた公約の柱です。日本共産党は代表質疑で、実現を求めました。

すげの直子議員「学生2人に1人が奨学金を借りているが、その返済額は、借りた額以上になり、多くの若者が苦しんでいる。国立大学でも入学初年度、学費負担が80万円を超えている。給付型奨学金制度を来年度には実施できるよう検討を。その際、地元への就職を条件としないように」

郡和子市長「現在、国の給付型制度拡充の推移を見守っている」

地元就職に返還助成も

すげの議員「また、給付型奨学金制度とは別に、奨学金返還助成制度を創設してはどうか。秋田県では、3年間で最大60万円の返還助成を行っており、募集人数に制限を設けず、非正規雇用も対象だ。地元コンビニでアルバイトしている青年も助成を受けている」

郡市長「地元就職など要件を満たす方を対象にした、返済補助による支援制度の創設を検討する」

太陽光パネル

市役所上杉分庁舎では、地中熱を循環させ、ビル1階の冷暖房や床暖房に利用している。

低炭素都市をめざす

郡市長は「低炭素都市」を打ち出し、温室効果ガスの削減、省エネの都市づくりをめざしています。日本共産党は、その推進策を提起しました。

花木則彰議員「『低炭素、環境』が仙台市の国際的な都市ブランドになるよう強く願う」

郡市長「再生可能エネルギーを活用したまちづくり、防災都市を市民と手をたずさえ進めていく」

花木議員「太陽光パネルは、小中学校のほとんどに設置された。風力、水力、地中熱の活用も積極的に進めるべきだ」

まちづくり政策局長「これらは、避難所での活用、電気料金の削減、売電による収益、温室効果ガス削減などの効果がある」

仙台市の再生可能エネルギーの活用状況

□**太陽光発電**…216件
□**風力発電**…1件
□**水力発電**…2件
□**地中熱**…1件

日本共産党仙台市議団

実力と信頼。

見つめているのは、たしかな未来。

1、**庄司あかり**　子育てから地域経済まで、どんな分野にも挑む。その能力は、現場に耳を傾けることで養われている。今回は、学童保育を取り上げた。

2、**花木則彰**　まちづくりへの識見が光った。脱原発・低炭素都市への提言は、最先端の理論と技術を踏まえたものだ。豊富な学識は、貴重な存在。

3、**ふるくぼ和子**　子どもの虐待死という深刻な現実を取り上げた。国際的到達の「子どもの権利条約」を展開。垣間見えたのは、子どもへの愛情だった。

4、**すげの直子**　代表質疑に立つ。今年度、教員採用予定数は、前年比で実に倍増。すじ道をつける提案が、市政をぐんぐん前進させている。

5、**高見のり子**　国保料の18歳以下減免がスタート。健康福祉常任委員としての奮闘が実った。いつも、弱い立場の人の味方だ。

6、**嵯峨サダ子**　市民といっしょに政治を動かすスタイルは、躍動感にあふれている。他党との共同の柱になり、今議会も市民要求実現に力を尽くした。

改革は、とまらない。

子どもをまもる

日本共産党は、子どもをまもり、成長を保障するまちづくりへ、さまざまな提言をおこないました。

児童相談所が光となるよう

幼い子どもの虐待死の報道が後を絶ちません。仙台市でも、虐待の相談件数は増加。2017年度は697件ありました。

ふるくぼ和子議員「児童相談所は、子どもの命の砦（とりで）だ。虐待相談は、平均して毎日2件が入る状況。現在、児童福祉司が23人配置されているが、ひとりの持ちケース件数は、年間平均92ケースにもなる。これでは、対応しきれない。厚生労働省は、児童相談所の体制強化を打ち出している。児童福祉司を増やすことが必要だ」

子供未来局長「基準に応じた人員配置に努める」

子どもの権利条例を

ふるくぼ議員「1989年、国連総会で採択された子どもの権利条約は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められたもの、児童福祉法でも言及されている。市政に、子どもの権利を明確に位置付け、施策を展開するため、子どもの権利条例の制定を提案する。そのなかに、いじめ防止も位置付けよ」

郡市長「いじめ防止対策は、喫緊（きっきん）の課題であり、そのよりどころとなる条例は、7月中にも骨子案をお示ししたい」

子どもの権利

□きちんと養い育てられる
□愛され、守られる
□成長と自立
□福祉を保障される

（児童福祉法第1条による）

児童クラブの改善

すげの議員「放課後の児童の生活と遊びを保障する児童クラブは、人数がどんどん増え、児童館では、必要な面積も確保できていない。282人になる錦ヶ丘児童館では、2階建のプレハブをつくったが、何の仕切りもなく、とても落ち着ける場所ではない。また、床がへこんだままになっているところもある」

子供未来局長「必要な改善を図る」

復興住宅の家賃減免を

復興住宅入居者と市議（超党派）との懇談

すげの議員「所得月額15万8000円以上は、収入超過者とされ、入居3年を超えると割増家賃が課せられる。最も高くなった事例では、昨年度4万1000円の家賃が今年度は13万4200円になった。自治会の役員として活躍していた方や入居者の見守りをやってくれていた方などが、家賃値上げで引っ越し、住宅のコミュニティにも影響がでている。被災者を追い立てるような復興であっていいはずはない」

学都フリーパス値上げやめよ

バス事業の赤字を理由に「学都せんだいフリーパス」のうちバス利用分を月800円値上げする条例改定案が可決されました。日本共産党は、反対しました。

庄司あかり議員「市当局は、値上げによって利用者が5%減ることを前提に増収額を算出している。バス利用を増やすのではなく、減らしてしまう改定は、悪循環だ。バス利用を増やし収益増をめざすやり方に切り替えるべきだ」

国の農政に意見を

仙台市は、「担い手農家」が農業機械など導入する際、一部を助成する事業に約2800万円を追加しました。助成要件に、経営コスト10%以上の縮減をあげています。

嵯峨サダ子議員「予算に反対するものではないが、国はTPP11を進めながら、アメリカなどの農産物とたたかう強い農業になれとお尻をたたく。矛盾したやり方だ。国の農政にはっきりものをいうことが必要だ」

市立病院の初診加算料

国の省令改定により10月から、仙台市立病院で診療を受けようとする場合、紹介状を持たなければ初診料である「非紹介患者初診加算料」が現行3240円から5400円に引き上がります（医師にかかる場合）。

高見のり子議員「初診加算料は、緊急、その他やむをえない事情の場合には、とらないとなっている。院内で対応する受付や案内に徹底してほしい」